

多様な視点に立つ学校力向上と学校改善の取組 ～人材育成と働き方改革の推進を中核として～

別海町立上西春別小学校
学 級 数 12
(校長 近藤 康)

1 児童の現状と実践テーマの趣旨

別海町の西の端に位置する本校は、近隣学校の統廃合や多種多様な地場産業を複数もつという地盤に立っている。地域は様々な価値観や文化を認め合う気風をもち、それにならって大らかで明朗な児童が多い。一方、忍耐力や自己肯定感に課題が見られるとともに、学力面では、国語科や算数科の基礎となる「知識及び技能」の習得に課題が見られる。

そのような中、平成30年度から「学校力向上に関する総合実践事業」における実践指定校として、学校が一体となって進める包括的な学校改善を通じて、課題の解決に取り組んできた。特に「学力の向上」を主眼に置きつつ、学校運営の様々な面において明確な到達目標を設定するとともに、全教職員が一致協力して学校課題に取り組む仕組みを構築し、「学校教育目標」「人材育成」「働き方改革」「情報発信」を視点とし、3年間の実践を積み重ねてきた。

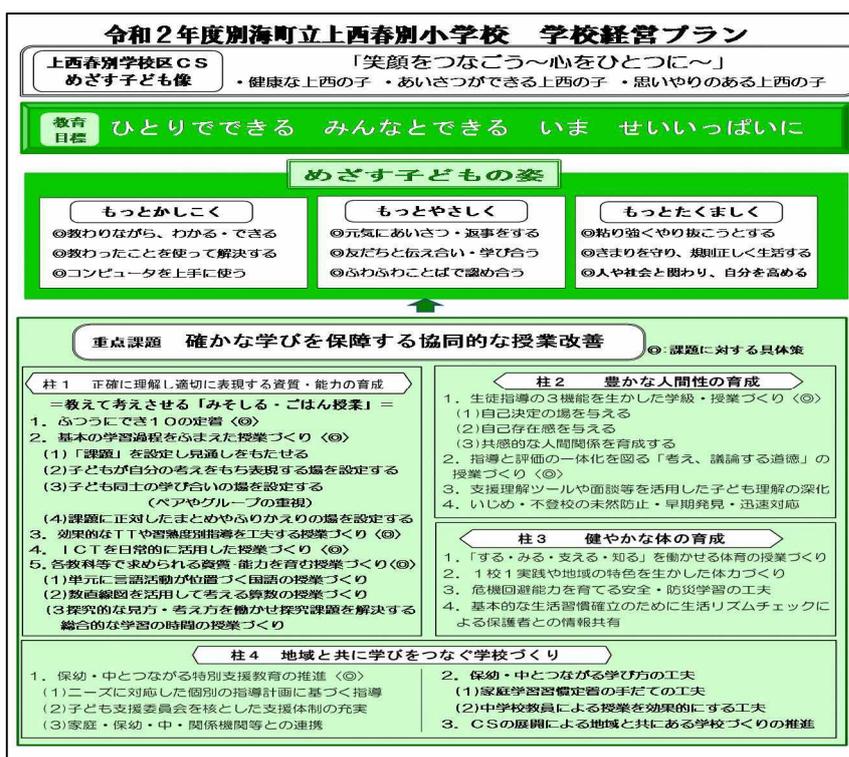
2 教育理念や経営方針を浸透させ具現化を図る

(1) 学習指導要領総則に基づく「学校教育目標と目指す子ども像」の改訂

学校の教育目標や経営方針を浸透させるために大切なことは、具体的であることと何よりも分かりやすいことである。

小学校学習指導要領解説総則編では、「各学校の教育目標を含めた教育課程の編成についての基本的な方針を、家庭や地域とも共有していくこと」とあることから、児童を含めて学校・家庭・地域で、教育目標や子ども像を共有するために、例えば、教育目標は「ひとりできる みんなとできる いま せいいっぱい」と設定するなど、できるだけ分かりやすい目標で表現するよう大幅な改訂を行った。

また、目標については評価可能な内容となるよう十分に吟味し検証し設定した。



【別海町立上西春別小学校 学校経営プラン】

(2) 総合的な学習の時間の見直し

学校教育目標とのつながりが深く、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの中核として位置付けられている。総合的な学習の時間についても活動内容の大幅な見直しを行った。

具体的には、地域の産業・自然・文化・安全・防災・福祉を総合的に捉え、「上西春別学」として、コミュニティ・スクールや地域団体との連携を図りながら、児童や学校・地域の実情に根ざした探究課題を明確にし、学習活動を行うことができるようにした。

学 年	探 究 課 題
第3学年	(地域の基幹産業) 「牛乳の旅1～4」
第4学年	(地域の自然・文化) 「別海十景の旅1～2」、「鉄道の旅1～2」
第5学年	(地域の防災・安全) 「安心・安全に暮らすために 上西安全マップを作ろう!」
第6学年	(地域の福祉・産業) 「福祉で街づくり1～3」、「仕事で街づくり1～2」

【総合的な学習の時間における各学年の探究課題】



【第3学年「牛乳の旅」】



【第4学年「鉄道の旅」】

3 人材（初任段階教員）を包括的に育成する

課題となる児童の学力向上のためには、指導する教員の指導力の向上が不可欠である。新採用教員の割合が大きく増加したこともあり、課題解決を図るためには初任段階教員に対する組織的・計画的な人材育成が大切である。

(1) 主幹教諭を中心とした初任段階教員研修の充実

初任段階教員の中心的なサポート役は主幹教諭が担い、日常的に指導するようにした。週1回の初任段階研修で計画的な育成を図るとともに、授業を含めた仕事全般に関する様々な悩みに対しても指導助言を行い、初任段階教員が自信をもって業務を行えるような職場づくりに努めた。

(2) 初任段階教員を学級担任として配置

令和2年度は、教員としての経験を積み重ね、組織的・計画的に人材育成に取り組むことができるよう、第6学年の学級のみベテランの教員が担任し、残りの5学級は全て初任段階教員が担任した。

その際、初任段階教員の学級担任をサポートする体制として、低・中・高の各ブロック特別支援学級に中堅・ベテラン段階教員を配置するとともに、各ブロック内の中堅・ベテラン教員がメンター役となり、日常的に交流を促進し、指導助言を行うことができる体制を整備した。

また、日常的な指導として、全学年の国語科・算数科においてTTによる指導や習熟度別少人数指導を導入した。その結果、教材研究や指導の状況を複数の教員が日常的に確認するとともに、指導の在り方を交流するようになり、初任段階教員の指導力が高まってきた。

(3) 全国学力・学習状況調査等を活用した教員の指導力の向上

教員の指導力の向上を図るために大切なことは、児童に身に付けさせる資質・能力を明確にして指導することである。

そのため、教員が調査問題を解いたり、児童の解答状況を分析し、その要因を考察したりするなど、全国学力・学習状況調査等を効果的に活用し、指導力の向上を図るようにした。

【教員が調査問題を解いてみて】

- 条件に応じて書く能力を育成することが大切である。(国語科)
- 日常の授業で、問題場面を把握することを重視する必要がある。(算数科)
- 一通りの考え方だけでなく、様々な考え方ができるようにすることが大切である。(算数科)

【児童の解答状況の分析】

- (算数科を例に)
- $0.75 + 0.9$ の計算では、0.9 を0.01の9つ分と捉えてしまったため、誤答となった。
- ↓
- ある数のいくつ分かをおさえて、計算の仕方を考える活動を重視する必要がある。

(2) これまでの教育活動を見直すとともに、取組のねらいや方向性を明確にする取組

教育の質の向上を図るため、これまでの教育活動を見直し、取組のねらいや方向性を明確にするとともに、その内容を保護者と共有した。これにより、管理職と各分掌部長で構成する「校務運営委員会」が一層機能し、取組の評価・改善を図るようにした。

より質の高い教育を目指して
令和2年度 上西春別小学校の取組に変化をつけています
別海町立上西春別小学校校長 近藤 康

学校を取りまく背景＝令和2年度から始まる具体的な取組＝

日本の教育の
ガイドラインの変更
【学習指導要領の改訂】

- これまでは「何を学ぶか」
それに加えて「どのように学ぶか」
＋「何が出来るようになるのか」
→「主体的・対話的で深い学び」
※**学びの機会がレベルアップ**
- 外国語活動(3・4年)・外国語(5・6年)
の新設
→**授業時間の増加**

学校における
働き方改革

- 本校の勤務時間 8:00~16:30
- 目標としている残業時間(勤務時間前も含)
□ 1か月45時間以内
□ 1年間360時間以内
(ここまで残業してよいという目安ではない)
(目標設定: 別海町教育委員会)

限られた資源の時間

より質の高い教育を推進するために

「子供たちのために」

この言葉がキーワードとなって、学校は色々なことに取り組んできました。しかし、時間が限られた資源であることに、目を向けていなかったところもあります。学校を取り巻く環境も大きく変化してきました。「学校の最も大切な役割って、何だったっけ?」に立ち戻る時期にきています。学校の教育活動の土台は、「日々の授業」です。教員の中心となる業務は、「授業と授業準備」です。授業準備の時間を確保し、授業でじっくりと子供に向き合うことで教育の質を高めています。そのために、いくつかの取組に変化をつけることにしました。ご理解とご協力をお願いします。

日課表・登下校

- 登校は7:45~8:00にお願いします→玄関開錠は、7:45です。
- 清掃時間を朝の会の前に設定します。
- 下校時刻は、5時間授業 14:00、6時間授業 14:45です。
午前授業(給食あり) 12:55
- 下校バスは、14:50(全校5時間 14:05)の1本のみです。
午前授業(給食あり) 13:00。

緊急連絡

- 臨時休校・繰り下げ登校・繰り下げ下校・運動会延期等の緊急連絡は基本的にメールでお知らせします。電話連絡は廃止します。
- メールで都合が悪い方は、学校から個別に連絡します(可能な限りメール返信にご協力ください)。

おたより

- 情報を整理し、情報が増えるおたよりを減らしていきます。
・「上西小ガイド」を配布します。
→ 学校生活に必要な基本的なコト・モノが書いています。
・ 学級通信は、各学級週1回発行です。

家庭訪問

- 住所の確認とご挨拶を兼ねた、玄関先訪問にします。
- 3日間で実施し、日程調整は行いません。不在でも構いません。
- 相談がある場合は、担任に連絡してください。別に時間を設けます。

参観日 懇談会

- 全体懇談(連絡・テーマ発信)→学級懇談という流れにします。
- 学級懇談は、担任からの説明形式を改め、全体懇談をうけてのフリートークにします。
- ざっとばらんに交流できる懇談会を目指します。

通知表

- 年2回(9月末・3月末)の発行にします。
→ 時間をかけてじっくりとお子さんの様子を見取ります。
- フリアファイル(6年間使用)を配布しますので、通知表はご家庭で保管してください。6年間の通知表アルバムになります。

運動会

- 午前の部・午後の部という形は変わりません。
- 勝敗のつく種目を増やします。
- 総練習は行いません。
- 表彰は、3年生以上による「まさこいソーラン」のみです

遠足・宿泊学習

- 遠足: 1~4年生で実施します。
- 宿泊学習: 5年生で実施。防災学習として校内で宿泊をします。
- 修学旅行: 6年生で実施します。

学習発表会を廃止
音楽発表会を新設

- 音楽の学習成果を発表する新しい行事を創り上げます。
- 詳細は教員プロジェクトチームで練り上げていきます。
- 10月に教育フェスティバルと同日開催します。

総合的な学習の時間

- 各学年で次のテーマについて、時間をかけて追究していきます
3年: 地域の酪農「牛乳の旅」
4年: 地域の自然環境と歴史「別海十景」「鉄道の旅」
5年: 安全な町づくり「防災学習」「上西安全マップ」
6年: 地域の未来と人々の願い「福祉で町づくり」「仕事で町づくり」
地域の施設や人材の活用を活発にしていきます。
● 学習成果を発表する機会を設けていきます。
● コンピュータの使い方を系統的に学んでいます。

本日配布した【上西小ガイド】ご家庭で見える所に貼ってください!
必要な持ち物 家庭学習 生活のまきり 早退や緊急連絡等
スムーズに学校生活を送るための情報をのせています。

【教育活動の見直しによる取組の方向性の明確化】

5 「学校力向上に関する総合実践事業」の成果を普及

取組の成果を普及するため、管内の管理職とミドルリーダーを対象とした、校長によるミニ講座を開催した。内容は、「ここが知りたい!学校力向上」を表題として、「校長のリーダーシップ」、「上西流人材育成初任段階研修を通して」をテーマに本校の取組を説明するとともに、参加者同士が意見交換をするなどして、学校力向上の取組の成果を普及しており、今後も継続していきたいと考えている。

6 成果と課題 (○: 成果、●: 課題)

- 新学習指導要領の完全実施と働き方改革の推進という二つの大きな流れの中で、「学校課題を解決するため学校力向上の取組を機能させていく」という明確な目標を学校全体でもつことができ、年齢や経験年数の違う様々な立場の教職員が、互いに協働し合い学校教育目標に向かって取り組む環境が整備された。
- 初任段階教員の育成を窓口として、学校全体の体制を総合的に見直し再構成したことにより、学校全体で互いの授業を参観し助言し合う姿がより多く見られ、授業改善の取組が推進されてきた。
- 今年度の全国学力・学習状況調査では、正答率は昨年度と変わらない状況であるが、無解答率が低くなっており、粘り強く取り組む意欲が向上してきた。
- 学校教育目標の大幅な改訂を行ったことを皮切りに、教育課程の再編成が行われ、大小様々な業務の改善を図ることができた一方で、業務改善については、現在も進行中であり、今後も積極的に取り組む必要がある。

7 今後に向けて

様々な立場と角度から学校改善のための仕組み(ハード)を整えてきたが、さらに推進させる原動力となるのは、やはり職員の意識(ソフト)である。意識段階の向上を目指して、一層の浸透を図っていききたい。